

# 令和4年度南アルプス市立八田中学校 自己評価書

令和5年1月6日(金)作成

学校長：笹本 学

記述者：教頭 林 健一郎

## 【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」  
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ  
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像  
○ふるさとを大切に思う児童生徒  
○変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒  
○自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

## 【学校経営の概要】

1. 校訓 『日日新』（ひびあらた）
2. 学校教育目標  
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像  
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝  
**は** 励んで学び、確かな知識を持つ生徒（知育）→ 知の力  
**っ** 強い精神と身体を持つ生徒（体育）→ 体の力  
**た** 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒（徳育）→ 心の力
4. 経営の基本方針
  - (1)すべての教育活動を生徒の育成に収斂する。
  - (2)山梨県学校教育指導重点、南アルプス市学校教育大綱及び教育振興プラン、各種法令に則った教育活動を行う。
  - (3)小中一貫校として、開かれた・特色ある・信頼される学校づくりに努める。
  - (4)生徒が安心して、安全に生活できる学校づくりに努める。
  - (5)日常での教師と生徒の信頼関係を基盤として、生徒理解を深め、一人ひとりのよさや可能性が活かされるように努める。
  - (6)教職員としての資質能力向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
  - (7)家庭・地域等との連携により、望ましい教育環境づくりに努めるとともに、外部機関等との信頼関係の構築にも努める。
5. 経営の柱
  - 【確かな学力の育成】
    - (1)個に応じたきめ細やかな指導
    - (2)社会情勢に対応した教育
    - (3)特別支援教育の充実
  - 【豊かな心の育成】
    - (1)ふるさと教育の推進
    - (2)情操教育の充実
    - (3)一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実
  - 【健やかな体の育成】
    - (1)体力の向上
    - (2)食育・健康教育の推進
  - 【学びを支える環境の整備】
    - (1)教職員の資質・能力向上
    - (2)家庭・地域と連携した学校づくり
    - (3)小中一貫教育の推進
    - (4)危機管理体制の整備・充実

# I 全体評価

## 1. 教職員の自己評価 (20名実施)

### (1) 自己評価の特徴

#### ① A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目について

- 2: 児童生徒は楽しく学校生活を送っている
- 4: いじめなどの諸問題に対して、お互いに情報を共有し、組織的に取り組んでいる
- 5: 「八田小中スタンダード」で育成をめざす、「伝え合う力」を伸ばすために、教育活動、教育指導の改善に努めている

#### ② A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目について

- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている (70%)
- 10: 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている (80%)
- 12: 地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っている (80%)

#### ③ D (否定的評価) がついた項目について

- 3: Q-U、アドジャン、学級力アンケートなどを活用して、児童生徒理解、人間関係づくりに努めている (1人)
- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている (1人)
- 10: 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている (1人)
- 13: 各種たよりやHP等により行事や授業などの情報提供を積極的に公開することを通して、「地域に開かれた学校」となるように努めている (1人)
- 15: 情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の利用に関わるモラル教育、リテラシー教育を行っている (1人)

#### ④ 昨年度学校評価との比較 (改善した項目、悪化した項目)

- 改善した項目 (R3後期→R4の変化)
- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている (63%→70%)
- 11: 保護者(家庭)と情報を共有し、指導に取り組んでいる (95%→100%)
- 悪化した項目
- 14: 外部機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めている (90%→85%)
- 15: 情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の利用にかかわるモラル教育、リテラシー教育を行っている (90%→85%)
- 16: 児童生徒の安全が確保されるよう、防災教育、防犯、交通安全などの安全指導に努めている (100%→95%)

### (2) 3学期～来年度に向けた取組課題 (自由記述より抜粋)

#### ○ 生徒の育成に関わる課題

- ・家庭学習について、小中一貫教育の中で連携した取組を考えていく必要がある。
- ・伝える力の育成とともに、生徒の主体性を育成していく必要がある。

#### ○ 多忙化と行事の精選にかかわる課題

- ・活動の多さに職員・生徒が追い付いていないと感じます。活動ありきで考えるのではなく、必要な取組を精選して残し、ひとつひとつの活動を充実させていく方向で考えてもよいのではないかと感じます。
- ・教育は、「教える」と「育てる」ことの両輪で成り立ちます。教えることは学習指導・授業改善、育てることは行事や日常の取組を通して行われるのだと思います。前者はそれなりに頑張っていると思いますが、後者は、改善の余地が大いにあると感じます。行事や日常の取組を通して子供たちをどう変えたいのか(どんな生徒に育てたいのか)、という点を、もっと突き詰め、共有すべきだと思います。

## 2. 生徒アンケート (147名実施)

### (1) 生徒アンケートの特徴

#### ① A・B (肯定的評価) の合計が80%以上の項目について

18項目(睡眠時間、携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、14項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、そのうち10項目で肯定的評価が90%を超える結果となった。

#### ② A・B (肯定的評価) が低い項目(80%未満)について (R3後期→R4の変化)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (64%→71%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く) (66%→59%)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (57%→49%)

※ いずれの項目も、昨年度と同じ項目において、低い評価が見られた。

### (2) 昨年度後期との比較

#### ① A・B (肯定的評価) の合計がある程度増加した項目 (R3後期→R4の変化)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (64%→71%)

9:あなたには、困ったことや心配なことを相談できる友達がありますか (88%→93%)

12:あなたは、授業中、自分の考えを発表していますか (74%→80%)

19:あなたは、家の人に学校のことを話していますか (85%→88%)

20:あなたは、自分専用のスマートフォン(携帯電話)やタブレットを持っていますか (90%→93%)

#### ② A・B (肯定的評価) の合計がある程度減少した項目 (R3後期→R4の変化)

2:あなたは、学校生活での時間を守っていますか (98%→93%)

11:あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか (98%→94%)

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く) (66%→59%)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (57%→49%)

15:あなたは、学校や学年、学級へ提出するものを期限を守って出せていますか (89%→84%)

20:(携帯・スマホについて)保護者と使い方のルールを決めていますか (90%→77%)

### (3) 上級生になるほど改善する項目

(1年→2年→3年)

5:あなたは、下駄箱の整頓を自分から進んでやっていますか (87%→88%→94%)

7:あなたは、相手の気持ちを考えて、行動していますか (95%→96%→98%)

### (4) 上級生になるほど悪化する項目

(1年→2年→3年)

14:あなたは、家で読書をしていますか (56%→52%→41%)

### (5) 3学期～来年度に向けた取組課題

#### ① 肯定的評価が80%未満の項目を改善することを課題とする。

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか

13:あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く)

14:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く)

#### ② 携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨する。

### 3. 保護者アンケート (132名実施：兄弟姉妹がいる場合も、生徒数分の回答をお願いした。)

※本年度、質問項目を大きく変更したため、経年変化を見とれない項目が多い。

#### (1) 保護者アンケートの特徴

##### ① A・B (肯定的評価) の合計が90%以上の項目について

14項目(携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、11項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

- 1：お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか (94%)
- 2：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (95%)
- 3：お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか (93%)
- 4：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (90%)
- 5：学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか (92%)
- 6：学校は、お子さんが考えを発表する機会を持っていると思いますか (95%)
- 8：お子さんは、ご家庭であいさつができていますか (91%)
- 11：学校は、保護者と情報を共有し、児童生徒の指導にあたっていると思いますか (93%)
- 12：学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (95%)
- 13：学校は教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか (93%)
- 14：学校は、防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思いますか。 (94%)

##### ② A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目について

14項目中2項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 7：お子さんは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (59%)
- 9：お子さんは、ご家庭で整理整頓ができていますか (52%)

##### ③ 携帯・スマホに関わる質問 (1年、2年、3年、全校)

- 15：お子さんは、自分のスマートフォン(携帯)やタブレットを持っていますか (はい:80%、94%、93%、89%)
- 15：スマホ・携帯の使い方についてお子さんとルールを決めていますか(はい:80%、80%、81%、80%)

#### (2) 昨年度後期との比較

##### ① A・B (肯定的評価) の合計がある程度増加した項目 (R3→R4の変化)

- 2：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (92%→95%)
- 12：学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (85%→95%)
- 15：お子さんは、自分の携帯・スマホ・タブレットを持っていますか (86%→88%)

##### ② A・B (肯定的評価) の合計がある程度減少した項目 (R3→R4の変化)

- 10：学校は、小中一貫校として小学校と中学校が連携した教育活動を行っていると思いますか (87%→84%)
- 16：携帯・スマホの使い方についてお子さんとルールを決めていますか (84%→80%)

## II まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、今後、以下の事柄について改善をしていく必要がある。

### (1) 学習保障と学力向上のための取組

#### 【成果】

○小中一貫校として義務教育9年間を見通した教育課程を実施しようと研究する中で、小中間の情報交換・共有がすすんでいる。

#### 【課題】

- 「生徒アンケート」から、学習への取組に課題があるということがうかがえる。
- 「保護者アンケート」から、特に家庭学習について保護者の不安が大きいことがわかる。

#### 【対策】

- ・本校の特色を大切に守りつつも行事の精選をすすめ、生徒に十分な学力を保障できる教育課程を編成する。また、職員の業務改善にも留意することで、生徒と向き合う時間や教材研究等の時間を確保する。
- ・新学習指導要領に沿って、「主体的・対話的で深い学び」が行われるように教師が授業力を高め、授業改善に努める。同時に、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」などを育むために、グループ討議や体験を通じた学習、他人に教える経験等の共同学習を実践することが大切である。
- ・一斉授業では発言(表現)ができない生徒も、グループ学習では自らの考えを発表しやすくなる。一方教師も机間巡視をし、一人ひとりの生徒の考えを見取ることが可能となる。エラーレスラーニングやパフォーマンス評価を取り入れる中で、個々の考えを教師が肯定的に評価する学習を積み重ね、個々が自分の考えに自信を持てる素地を作る。
- ・八田小中学習スタンダード(学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール)を意識した授業づくり、中でも今年度改良した「八田メソッド」を活用した授業実践を推進する。
- ・県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。小学校と歩調を合わせ、小中9年間一貫した家庭学習のスタイルを構築する。

### (2) いじめ・不登校に対する取組

#### 【成果】

- 1～2学期間でいじめを12件(1学期6件、2学期6件)認知し、①解消している(5件)②一定の解消図られたが、継続支援中(7件)であった。重大事態(生命心身財産重大事態・不登校重大事態)は、今のところない。
- 12月末現在、年間30日以上欠席している生徒は10名いる。理由は様々であり、個別に対応をしているところだが、別室登校ができるようになった生徒も増えており、改善傾向がみられる。

#### 【課題】

●SNS等を背景とした人間関係のトラブルが増えてきたが、携帯・スマホを持つ生徒が増加しているのに対して、保護者と使い方のルールを定める家庭が減少してきている。

#### 【対策】

- ・「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実にを行うとともに、毎年見直しを行う。
- ・引き続き、いじめの認知を積極的にを行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- ・いじめの未然防止の取組(授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり)を継続していく。
- ・「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。
- ・いじめ防止に繋がる道徳科の授業や道徳教育を充実させる。
- ・いじめの被害者や不登校生徒に寄り添いながら、相談(SCを含む)や家庭訪問等を行う。
- ・保護者との連絡を密にするとともに、関係機関(児童相談所・市子育て支援課・警察署・病院等)との連携をとりながら、指導にあたる。
- ・携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨する。

### (3) 地域に開かれた学校づくり・コミュニティ・スクールの定着に向けた取組

#### 【成果】

○コロナ下ではあったがいくつかの行事でコロナ以前の実施形態に戻すことができ、保護者に参観頂くことができた。

#### 【課題】

●小中一貫校やコミュニティ・スクールのめざすところが保護者や地域住民に十分に伝えきれていない。

#### 【対策】

- ・CS(コミュニティ・スクール)のめざすところなどを、職員・生徒・保護者、地域の方々に周知していく。
- ・地域の方を教育課程の中に取り込む工夫をする。(授業や部活動のお手伝いなど)そのために、地域の人材を掘り起こす。
- ・学校運営協議会において、学校評価をもとにした学校経営方針を示し、理解を得る。また、その結果をPTA総会等の機会において、全保護者に周知する。